



豊玉二中だより

令和3年度 第5号
発行日 9月3日(金)
練馬区立豊玉第二中学校
校長 神山 信次郎

目標に向かって

校長 神山 信次郎

42日間にわたった夏季休業日が終わり、いよいよ2学期が始まりました。この夏は、新型コロナウイルスが再び猛威をふるう中、各自が自粛に心掛け、時間の使い方に悩み、工夫した毎日だったことでしょう。それでも皆さんはそれぞれの目標・目的を持ち、充実した夏休みを送ったことと思います。

さて、今年の夏休みは東京2020オリンピック・パラリンピック大会が開催されました。皆さんもテレビで観戦したことと思います。このオリンピック・パラリンピックでは様々な問題もありましたが、競技に参加した全選手が、私たちにすばらしい感動を与えてくれました。また、同時に人としての生き方など多くのことを教えてくれました。

優勝した喜びを全身であらわす姿、自分の持てる力を出し切ったすがすがしい表情、力及ばずに敗れてこみ上げる悔しさに涙する顔……。国や人種、考え方や習慣などが違っていても、一生懸命ひたむきに競技に打ち込む選手たちの姿に、私たちは感動するのだと思います。オリンピック・パラリンピックの素晴らしさは、こんなところにあるのではないかと改めて感じました。中でも13歳で金メダルをとったスケートボードの西矢椋さん。14歳で銀メダルをとったパラリンピック競泳女子100M背泳ぎの山田美幸さん。みなさんと同年代の選手が世界の舞台で活躍する姿に私は感動しました。西谷さんは「もみじスマイル」、山田さんは「楽しく泳ぐ」をモットーに、一度のチャンスに挑む姿は輝いていました。この強さはいったいどこからくるのでしょうか。やはり、ここまでくるために、私たちには想像もつかない努力があり、練習の苦しさに涙したり、記録が伸びず自信を失ったり、怪我との戦いもあったことだと思います。そのような時にも、目標を見失わず、その辛さや苦しさに打ち勝ったからこそ、勝利があり、大きな感動を与えてくれたのだと思います。選手は一瞬の輝きのために、長く苦しい時間を重ねています。考えてみてください。私たちにも選手たちと全く同じ時間が与えられています。個性やハンディキャップ等、それぞれ違いはあるとしても、時間だけは等しく与えられているのです。それを自分はどう使うか、それが生きていくということだと思います。



さあ2学期が始まりました。まだまだ制約の多い毎日が続きますが、1年間の中心となる最も長い2学期を一人一人がしっかりと目標を立て、達成するための努力を惜しまず、精一杯頑張らしましょう。辛い時やくじけてしまいそうな時もあるでしょう。そんな時は少しゆっくりするのも良いでしょう。目標さえ見失わなければ、必ず前へ進める力がまた湧いてくるはずです。

勉学の秋、スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋……。と言われます。正しい生活リズムのもと、心と体を鍛え、目標をしっかりと見据えて、2学期を充実したものにしてください。